



一般社団法人グリーンバナー推進協会 主催

## 日本最古の修験の道「葛城二十八宿」を活用した 自治体広域連携による森林教育と森林・文化観光に関するシンポジウム

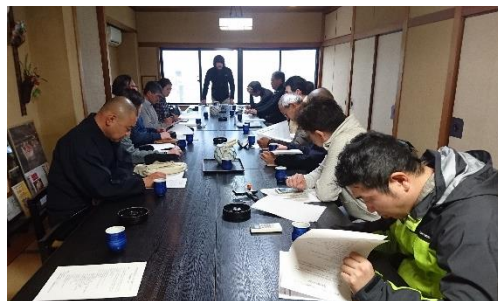
2017年1月29日(日曜)、一般社団法人グリーンバナー推進協会は和歌山県、大阪府、奈良県にまたがる修験道の聖地「葛城二十八宿」について、京都市・本山修験宗聖護院門跡の修験僧をはじめ、二十八の経塚がある市町村から和歌山市、紀の川市、河内長野市の職員、研究者、関係者、市議会議員が和歌山市加太に集まりシンポジウムを開催しました。会議では、大学教授、森林組合連合会代表、在阪テレビ局ディレクターも加って議論は多岐に及び、次回につながる成果を上げることが出来ました。

### 【シンポジウムのテーマ】

世界遺産・熊野古道よりも古いとされる、修験道の開祖・役行者が開いた山岳修行の道「葛城二十八宿」を児童教育や外国人を含む観光利用、自然を敬う心の伝承に活用すること。

※「葛城二十八宿」は和歌山市加太の友が島を起点に、和歌山県北部～大阪府南部～奈良県西部をつなぐ山道。

※16の自治体に二十八の経塚が存在する。



第一経塚がある和歌山市加太の友が島

### 【主な議題】

- 「葛城二十八宿」を通じて子供たちに自然と向き合う心をどう伝えられるか(自然教育と文化・歴史教育の融合など)
- 外国人観光客や都会生活者に日本人の心を伝える場所として活用できないか(大阪都心部や関西国際空港からの利便性など)
- 忘れられつつある自然崇拝の心をどうメディアで伝えられるか(テレビやSNSの活用など)
- 文化保存と観光の共存(文化財破壊・盗難問題など)

### 関係する多数市町村からご参加頂きました

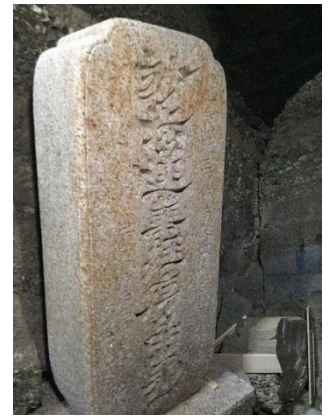
今回のシンポジウムには和歌山市、紀の川市、河内長野市、御所市、京都市、大阪市からお集まりいただき、行場での修験のあと会議が行われました。

修験道を極めるため日々精進されている山伏の方、千年以上に及ぶ歴史を今に伝える家のご一族、歴史と文化の伝承を担う公職員、文化・教育に熱心に取り組む市議会議員、観光協会リーダー、和歌山大学観光学部教授、読売テレビのディレクター、イベントプロデューサーなど多岐にわたる専門家による議論は盛り上がり、具体的な行動に向け第2回シンポジウムを開催することも決まりました。



千年の歴史をもつ山岳修行の道に、日本人の心の原点を再発見。  
教育につなげ、観光と共存し、自然と共生する持続可能な社会を創る。

## ■第一経塚は友が島(虎島)の巨石の洞窟にあります



## ■修験道の行場である崖を登ると役行者像が祀られています



## ■葛城二十八宿の経塚は16の自治体に現存しています

